

■特別支援学級における実践事例

読みに困難のある子どもの指導に マルチメディアDAISY図書を活用する

栃木県鹿沼市立みなみ小学校
竹之内 崇

ICTを取り入れながら特別支援教育の充実を図る

児童数が220名程度の中規模校である本校には、外国とつながりのある子どもや、児童養護施設から通学する子どものほか、特別な支援を必要とする子どもたちが多数在籍しています。また発達障害などのある子どもも、少なからず各学級に混在していると思われま

す。これらの子どもたちに対し、数年前からICT機器を取り入れた学習支援に取り組み、特別支援教育の充実を図ってきました。

読みに困難のある子どもに対し、DAISY教科書の有用性を見だし、活用することで困難さを緩和しているという取り組みもその一つです。この実践の中で、多くの子どもたちに効果を認めることができましたが、その一方で効果が認められない子どももいました。

それは、ハイライトされた文字を音声とマッチングさせていくという単純な作業に興味を示すことができなかった子どもたちでした。とくに、児童養護施設の子どもの外国とつながりのある子どもは、生育歴による語彙の少なさが顕著に表れており、そのことが原因の一つと考えられました。

そこで、ものの名前や様子を表す言葉を楽しく効果的に学習させることができる教材・教具として、マルチメディアDAISY図書の導入を考えました。

ここでは、おもに児童養護施設の児童と日本語指導教室での実践について記します。

特別支援学級での実践

児童養護施設から本校に21名の子どもが通っていて、うち13名が特別支援学級に在籍しています。今回の実践学級は6名の在籍があり、全員

が児童養護施設の子どもたちです。

(1) 使用場面について

ほぼ一人に1台のパソコンが使える環境にあるため、朝の学習、国語の時間、休み時間などあらゆる機会に使ってよいこととしました。それは、情緒面での課題を有する子どもがほとんどなので、学習したくなった時がチャンスだからです。

(2) Aさん(3年生)の姿

Aさん(3年生)は、気持ちを落ち着けるために服薬をしている影響から、朝は気分がすぐれないので、2校時以降の国語の時間に活用しました。

使い始めるにあたり、どのようなタイプのものがよいか本人と相談しました。Aさんは、「絵があって、読んでいるところがハイライトになるのがいい」という希望でした。

最初に選んだのは、『おとうさんはウルトラマン』でした。楽しく聞いていましたが、むずかしい言葉も出てきて、内容はよく理解できなかったようです。

つぎに選んだのは、『11ぴきのねことあほうどり』でした。「ためいきをつく」「つぶやく」「あんないする」「したなめずり」など、様子を表す言葉や初めて聞く言葉にも、挿絵で確か

めるように聞き、イメージをつかんでいったようです。



「愛」「せなかでかたる」は絵を見ても理解することがむずかしかったようです。



おいしそうなあほうどりを見ながら、ねこたちが舌を出して唇をなめている様子を見て、直感的に理解していました。(したなめずり)

日本語指導教室での実践

読み書きに困難のある子どもに対する支援の一つとして、ICTを活用した読みの指導を行っています。とくに初期段階においては、絵本の読み聞かせにより、音と文字をマッチングさせる学習に「わいわい文庫」を活用しています。

(1) 使用場面

1年生4名、2年生6名それぞれの授業時間において、おもに全体での読み聞かせで活用しました。

1年生では、内容がわかりやすく、挿絵が多いものや比較的短い話を選んで使用しました。

2年生では、とくに指定せず、興味をもって幅広く読めるようにしました。

(2) Bくん（1年生）に見られた姿

わいわい文庫で絵本の読み聞かせを行うと、音声に合わせて声を出し、画面上で言葉をなぞる様子が見られました。絵を見ながら読み進められる絵本の内容にどんどんひきつけられ、言葉への興味関心がより高まっていく様子がうかがえました。



画面上で言葉をなぞるBくん
(日本語指導教室においては、青い盤面を使用しています)

(3) Cさん（1年生）に見られた姿

最初は絵を追うだけでしたが、少

しずつ言葉がわかってくると、文字にも興味を示すようになりました。読みはまだ逐次読みですが、音声を言葉のまとまりで止め、聴いた言葉に対して、文字を追いながら真似して発声させ、また再生するという流れの支援を繰り返し行いました。内容の読み取りに関しては、問いかけると適切な答えを言葉で返すことができるようになりました。

(4) Dさん（2年生）に見られた姿

わいわい文庫の絵本に興味を示し、とても楽しむことができていました。語り手と会話文の違いに気づくことができ、読みが上手になっていきました。また、多くの絵本に触れる機会ができました。

考察

今回実践した特別支援学級の子どもたちは、紙芝居の読み聞かせや、日本昔話のビデオ視聴が大好きです。紙芝居については、同じ作品を何度でも読んでほしいと要求してきます。絵を隅々まで凝視しながら語りを聞いています。登場人物の表情や仕草を語りの言葉と合わせながら、一生懸命に学ぶ様子がよくわかります。

マルチメディアDAISY図書を視聴する姿にも同じ様子がうかがえました。むしろそれだけでなく、聞いて

いる言葉を視覚的に確認しながら聞くことができるようになりました。教科書とは違う、絵本の世界で学びが広がったと感じました。

日本語指導教室の実践から感じたことは、物語文で語り手と会話の違いを読み手が入れ替わったり、読み方に表情をもたせたりすることで、場面の状況や人の表情を認識しやすくなったということです。これはDAISY教科書だけでは学びにくい分野だと思います。

今後の期待

- 常に挿絵を見ながら、ハイライトされた文字も追うことができるようになることで学びやすくなります。時折文字だけの画面になったり、途中で縮小操作を要したりすることがあります。
- 人の表情や仕草、情景などがクローズアップされた作品など、レベルや分野が広がっていくことを期待しています。

